

心に残る文化財子ども塾 活動の概要と様子 ～ 奥出雲立布勢小学校 ～

1.概要

6月22日(火)に心に残る文化財子ども塾『地元の遺跡について学び、金属鏡作りと火起こしに挑戦しよう』を実施しました。

はじめに奥出雲町内の遺跡を説明し、特に布勢小学校の周辺や尾原ダム用地内に多くの遺跡があることを紹介しました。

次に尾原ダム地内の家ノ脇 II 遺跡から出土した土師器と須恵器に触れてみました。はじめは恐る恐る触れていました。その後互いに土器に触れた感想を発表してもらいました。

そして金属鏡作りです。低融点金属が溶けていく様子を興味深く眺め、シリコンの鋳型に金属を流し込む際には歓声をあげる子もいました。その後完成した鏡を一生懸命に磨き、中にはぼんやりと顔がうつるまで仕上げるのできた子がいました。

最後に火起こしです。火起こしの軸が板から離れてしまうことが多く、煙は上がるもののなかなか思ったようには火をつけることができませんでしたが、かけ声をかけたりするなど息を合わせて取り組んでいました。2組成功しました。

2. 活動の様子



町内で出土した土器に触れています。



溶けた金属を鋳型に入れて冷ましています。



鏡をきれいに磨いています。



火起こしに挑戦！

3.子ども塾を終えて

1.児童の皆さんから

【心に残ったこと】

- ・火起こしをして煙が出始めてからきつかった。
- ・二人で火をおこせた。
- ・島根県に遺跡がたくさんあることがわかった。
- ・昔の鏡がどのように作られているかがわかり、やすりで一生懸命磨いたので鏡がきれいになった。

【もっと知りたいことは？】

- ・錐もみ式などいろいろな火起こしのやり方。
- ・勾玉を作ってみたい。

2.担任の先生から

奥出雲町の話など、遺跡が子どもたちの身近にあることが感じられた。聞くだけでなく見たり触れたり体験したりと体感することができた。

3.埋文センターから

土器に触れ、金属鏡を磨き、火をおこすという盛りだくさんの内容でしたが、集中して取り組んでいました。須恵器と土師器に触れた際にはそれぞれの手触りの違いを述べていました。また、金属鏡作りでは短い時間の中で集中して磨く姿がみられました。火起こしではかけ声をかけるなどお互いに協力して努力する姿が印象的でした。